

Ipang Seineng ra Oreor
イッパン・セイネン・ラ・オレオール

代表
ビルン・G・サリー
ワイサン・マリウール

主な活動内容

- コロールで行われる集会の主催やサポート
- メェシル・ベラオと呼ばれるパラオ全州の女性リーダー組織の支援
- コロール州の人々の健康促進
- 子供達に文化・伝統的習慣を伝える
- 支援を必要としている人への寄付を会員から集める
- ゲメリス島やコロール州内公立墓地の清掃

**設立背景**

終戦直後、女性大酋長のマリア・ギボンズ・メレップ氏と女性酋長のディサイングアオール・テラック・フリズ氏が主体となり、コロール州の女性を構成員とした団体を設立。その後NGOとなる。設立当初は日本統治時代の教育により日本語が堪能な会員が多く、団体名のIpang Seinengは一般青年のことである。

活動目的

コロール州で開催される全てのイベントを、ビルン（コロールの女大酋長）と緊密に連携し支援を行う。また、メェシル・ベラオ、コロール州政府、および国会議員が主催するあらゆる行事への支援や、コミュニティや市民へのサポートも行う。

メンバーからの声 ワイサン・マリウール代表

コロール州には、コロール州の女性のための組織がすでに存在していましたがそれはコロール州出身の女性専用であり、コロール州在住の他州出身者はその情報網から漏れているという問題点がありました。そのため、私達の組織は、コロール州在住のすべてのパラオ人女性を対象に設立されました。私たちは、コロール州の人々がより健康的で幸せな生活を送れるよう、病院、刑務所、赤十字、パラオ国際珊瑚礁センターそしてパラオ保護協会に資金や食料を寄付し、環境保全や公衆衛生を支援しています。

現在は組織が所有する集会所がないため、随時、地域の施設などを借りて活動を行っています。しかし、パラオでは古くから大切な話し合いはバイと呼ばれる集会所で行っていたので、円滑な組織運営のためにもバイの再建を望んでいます。

また、脆弱な交通手段の改善も望んでいます。コロール州はパラオ全人口のおよそ八割の人々が住んでおり、先述の通りコロール州在住者である会員は他州出身の者も少なくありません。そのため、冠婚葬祭などの行事のため他の州へ赴くことがよくあります。特に葬儀は私たちにとってとても重要ですが、公共交通機関が殆どないパラオでは、交通手段が無いために不本意ながら参加できないことがあるのです。

このように、私達はコロール州にある酋長制度をはじめとしたパラオの伝統文化に沿って活動しています。自分たちの娘をはじめ、若い世代の女性がこのような伝統文化に興味を持ち、コロール州の伝統と文化がこれからも継続することを願っています。この組織のモットーは「人と人が手を取り合うことでひとりひとりが幸せで健康的な人生を楽しむこと」です。

Contact Information

 (680)-488-2605 (680)-775-5936